

樹脂被覆鋼管製造の「流浸工業」

流動浸漬用 抗ウイルス樹脂を開発

建材、医療器具など多分野で拡販

各種プラスチックコーティング鋼管や建築部材の製造販売を行う流浸工業（本社・大阪府堺市美原区、社長・大久保秀俊氏）は、抗ウイルス性能を持つコーティング用樹脂の開発に成功した。配管部材や建材、医療器具など多分野で拡販を図る。合わせて、今後の需要拡大と量産体制のため奈良工場（奈良県奈良市蘭生町）にクーリングミキサーを導入した。

を図る。

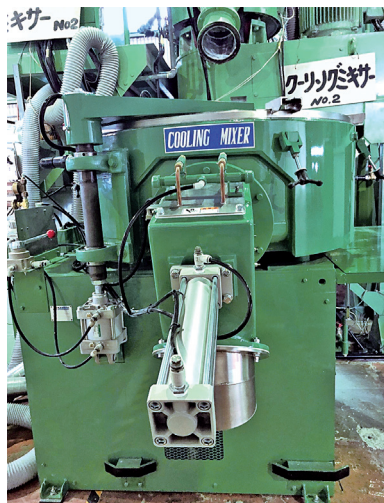
「クーリングミキサー」は、樹脂のパウダー粉砕時に生じる温度

上昇を冷却する装置。流動浸漬用の塩ビ樹脂を作る際、最初にルーダー（シリンダーとスクリューで構成する加工機）で塩ビ樹脂を混

練して直径2・5ミリの長さ2ミリのペレット（造粒）を作る。そのペレットを液体窒素で塩ビの低温脆性（温度低下でもろくなる性質）以下に温度を下げ、て粒度分布が流動浸漬に合つように加工。次にヘンシェルミキサー（粉砕機）でパウダー状に粉砕する時に生じるエッジ（出っ張り）部を処理するが、その時の樹脂温度上昇をクーリングミキサーで抑える。流浸工業では、今後も抗ウイルス性製品の需要拡大を見込んでいる。量産体制で拡販を図るとともに、引き続き改良を重ねながら顧客のニーズにあった新しいコーティング用の樹脂開発にも注力していく方針だ。

クーリングミキサー 奈良工場に導入、量産へ

同社では加熱した金属をパウダーの入った流動槽に浸漬して塗膜加工を行う「流動浸漬法」というコーティング方法を手掛ける。また、市販の流動浸漬用パウダーやオリジナル製品の塩ビ樹脂（PVC樹脂）などに顧客の要望に応じた発泡剤や抗菌剤を添加した樹脂加工を行う「流動浸漬開発も行っている。今回、新型コロナウイルス感染症の拡大により抗ウイルス効果を持った樹脂の要請があり、開発に着手。先月に抗ウイルス性試験（ISO21702）で性能基準値をクリアした。配管部材のほか、ドアハンドルや手すり、荷物用カート、福祉・医療用具向けなど抗ウイルスのニーズが見込まれる分野で拡販



奈良工場に導入したクーリングミキサー①と、流動浸漬用抗ウイルス性樹脂パウダー

